

**広島県モビリティデータ連携基盤構築業務
公募型プロポーザル選定委員会 議事要旨**

項 目	内 容
1	日 時
2	場 所
3	出席委員
4	議 題
5	担当部署
6	開催方法
7	議事内容

令和6年3月22日 14:00～15:30

広島県庁本館 301 会議室

広島県地域政策局 交通対策担当課長
 広島県地域政策局 中山間地域振興課長
 広島県地域政策局 公共交通活性化担当監
 広島県総務局 DX推進担当部長
 広島県総務局 情報戦略担当部長

広島県モビリティデータ連携基盤構築業務の最優秀提案者の選定

交通対策担当

① 参集
 ② 持ち回り

最優秀提案者の選定にあたり、以下のとおり質疑応答を行い、委員から評価・選定理由を確認した。

●：選定委員
 ○：A社（株式会社NTTデータ）、◇：B社（SWAT Mobility Japan 株式会社）

【質疑応答（A社）】

●：県として将来的に、モビリティデータ連携基盤以外のデータ連携基盤も含め大きなデータ連携基盤を構築していきたいと考えているが、他のデータ連携基盤とのインターフェースや、他のデータ連携基盤と組み合わせた分析など、そのような観点での流動性はあるか。

○：データを加工してインターフェースにあわせて提供することや、データを取り込むことは技術的に可能。ただし、実際に検討する際には、タイミングやインターフェースの内容について、具体的な議論が必要と考える。

●：独自で提供いただける機能として、「将来推計人口を利用した利用者数の推計」とあるが、どのくらいの精度で把握できるのか。

○：精度が高い複雑なシミュレーションではなく、単純にこれまでの実績で推移したらどうなるかというレベルでの提供を予定しているが、将来推計の精度をどこまで高めていく必要があるか等の目指す姿を示していただければ、それに合わせて実装することは可能と考えている。

●：仕様書に記載のあるアカウント数は満たしているか。また、マニュアルに関して、わかりやすいものを作成するための工夫があれば伺いたい。

○：アカウント数は、最大アカウント数、同時接続数とも仕様書の要件を担保する。マニュアルについては、ハンズオン形式で一回触ってみてその場で疑問を投げかけてもらうことや、要望があれば動画でのマニュアルも検討したい。

【質疑応答 (B 社)】

- ：仕様書に「市町・交通事業者への利用支援」とあるが、提案書に記載がないように見受けられた。
- ◇：提案書 p22～23 に、具体的な事例として、どのようにデータを見て、どのように改善策を考えるかという提案を記載している。
- ：広島県内の全ての市町で同様のことを実施するのか。
- ◇：「説明会・研修会に換算して年4回程度」という仕様書に記載の範囲内で実施する。
- ：バスの便数削減の提案実績があるとのことだが、他のデータと結合させることで、例えば過疎地でのバスが運行していない時間帯での実証運行等を検討するためのツールとして活用できるか。
- ◇：時間帯ごとの人流データを分析し、夜間時間帯でも人流があれば実証運行を行うなどの検討が可能。過去の実績として、人流データを分析し、コミュニティバスのルート変更の提案を行ったことがあるが、時間帯においても同様のことができると考えている。
- ：現受託事業者から技術提供を受けているとのことだが、どのレベルで技術提供を受けているのか具体的に伺いたい。
- ◇：ソースコードレベルでも技術提供を受けている。ただし、全く同じものを作るのではなく、自社で持っている技術も組み合わせてより良いものを作りたいと考えている。
- ：市町が使いやすいマニュアルを作るための工夫があるか。
- ◇：わかりやすいマニュアルを作るのはもちろんであるが、誰もが直感的に使いやすいシステムを作っていきたいと考えている。
- ：研修については、スケジュールで4回実施することとなっているが、間違いなにか。
- ◇：スケジュールに記載どおり、4回実施する。
- ：アカウント数について、仕様書の要件を満たしているか。
- ◇：仕様書の要件を満たすよう実施する。

【最優秀提案者の決定】

- 委員 A：採点の結果、総合値は、A 社：348、B 社：372 で、B 社の方が高得点となった。
- 委員 A：A 社・B 社、それぞれアプローチが異なっているが、より B 社の方が広島の課題を踏まえた過疎地におけるビッグデータの扱い方に知見があるように感じ、結果、B 社の得点が高くなった。
- 委員 B：B 社を高く評価した。現受託事業者との関係性も確認した上で、即戦力性を評価した。
- 委員 C：A 社を高く評価した。仕様書と提案書を比べたときに、B 社は記載されていない項目があった。

	<p>委員 D：B 社を高く評価した。独自提案を見たときに、県として将来を見据えて対策を考えていく中で、現在のデータが将来を検討する上でどれだけ使えるかが重要となるが、その部分が A 社は弱いように感じた。過去の事例を見ても、A 社は街中、B 社は街中に加え過疎地についても記載があったことが評価につながった。</p> <p>委員 A：今後、仕様の中身を詰めていくべき点があるが、審査の結果、B 社を最優秀提案者として決定したいと思うが、異議はあるか。</p> <p>委員全員：異議なし。</p> <p>委員 A：それでは、B 社を最優秀提案者とする。</p>
--	--